画像作成：松原市教育委員会

書　　名	ジュニア文化財講座　教えて、お城の先生！ - 中井均先生が語るお城の魅力 -
書名かな	じゅにあぶんかざいこうざ　おしえて、おしろのせんせい！ - なかいひとしせんせいがかたるおしろのみりょく -
編著者名	中井 均(なかい ひとし)
編集機関	-
発行機関	松原市教育委員会
発行年月日	2023 年 8 月 20 日
郵便番号	580-8501
電話番号	072-334-1550
住　　所	大阪府松原市阿保 1-1-1
備　　考	松原市民ふるさとぴあプラザで、文化財課が令和 5 年(2023)8 月 20 日に実施した「文化財ジュニア講座」の配布資料である。資料の著作権は著作者である中井均（滋賀県立大学名誉教授)に帰属する。なお、公開に際し松原市教育委員会事務局文化財課が PDF ファイルにリンクを追加している。

PDF ファイル制作日：2023 年 8 月 25 日

ジュニア文化財講座　　2023/08/20

教えて、お城の先生　－中井均先生が語るお城の魅力－

滋賀県立大学名誉教授　中井　均

◆はじめに

・お城(城郭)とは何だろう？ ⇒ 軍事的な防御施設【普請と作事から成る防御施設】
普請とは ⇒ 石垣、土塁、堀などの土木施設【縄張りと呼ばれる平面プランを構成する施設】
作事とは ⇒ 天守、櫓、門、御殿などの建築物
※天守は城郭を構成するひとつのパーツ(部分)にしか過ぎません ⇒ お城＝天守閣ではありません(ちなみに江戸時代は天守と呼んでいます)

・姫路城はどうして美しいのでしょうか ⇒ 白鷺城【機能美であり、美しく造ろうと思ったわけではありません】

◆近世城郭とは

・中世の城郭 ⇒ ほぼすべてが普請によって構えられていました【土の城】
14 世紀から 16 世紀後半までの約 300 年間に日本全国に約 3～40,000 もの城館が構えられていました
⇒ 日本の中世は大築城時代と呼べます【世界史的にもこれだけの城が構えられた地域は他にはありません】
中世城郭は基本的には土木施設として構えられました ⇒ 作事はほとんど意識されていません

・近世の城郭 ⇒ 普請は石垣になります。さらに作事にもウェイトが占められるようになります【石の城】
その始祖が織田信長によって築かれた安土城です ⇒ 石垣(高石垣)、瓦(金箔瓦)、礎石建物(天守)という 3 つの要素から構成されています【戦う城から見せる城へ】

・織豊系城郭とは ⇒ 織田信長、豊臣秀吉とその一門、家臣団の城郭に貫徹される共通性の強い城郭【統一政権を具現化したシンボル】
城郭革命 ⇒ 以後の日本城郭に多大な影響を与えました

・江戸時代の城 ⇒ 全国に約 150 ヶ城が存続(100 ほどの大名は築城を許されない無城主大名で居所は陣屋と称しました)
城には城下町が営まれます ⇒ 城と城下町は藩の拠点として政治、経済、文化の中心地となります【現在の地方都市の大半は江戸時代の城下町です】

※県庁所在地はほとんど城下町【岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、東京都、富山県、石川県、福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、大阪府、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、大分県、鹿児島県、沖縄県】

◆近世城郭の見方

・まずは天守 ⇒ 城郭の唯一無二性を示す建造物【天主に住んだのは織田信長ただ一人】
江戸時代の天守には藩主は一生に一度もしくは数度登るだけ ⇒ 居住施設ではなかった【外観を見せるだけ】
残存する 12 の天守 ⇒ 国宝 5 天守【姫路城天守、彦根城天守、犬山城天守、松本城天守、松江城天守】
重文 7 天守【弘前城天守、丸岡城天守、備中松山城天守、丸亀城天守、松山城天守、宇和島城天守、高知城天守】
※焼失 7 天守【名古屋城天守、大垣城天守、和歌山城天守、岡山城天守、福山城天守、広島城天守(戦災)、松前城天守(失火)】

・建物だけではありません
普請に注目 ⇒ 石垣の見方【築城されたときの石垣がそのまま残されていることはまずありません】
地震、大雨などの自然災害による崩落 ⇒ 幕府に修築申請して許可を得てから修理を実施しました【同じ場所に同じ規模での修理】

・しかし、石積みの技術は進歩しています ⇒ 城跡に残る石垣には様々な石垣の積み方を見ることが出来ます

・石垣の積み方 ⇒ 石材の加工度【自然石を用いた野面積み、隅部を打ち欠いて調整した石材を用いる打込接、方形に調整された切り石を用いる切込接】
積み方【横目地の通る布積み(整層積み)、目地の通らない乱積み、斜めに交互に積む谷積み(落とし積み、矢羽根積み)、六角形の石材を積む亀甲積み】

・同じ石材を用いる【岡山城】
⇒ すべて花崗岩を用いた石垣ですが、修理の年代によって加工が違う

・違う石材を用いる【和歌山城・彦根城】
⇒ 和歌山城では緑泥片岩(桑山氏)→砂岩(浅野氏、徳川氏)→花崗片岩(徳川氏)
⇒ 彦根城ではチャート→湖東流紋岩→花崗岩
石垣しか残っていないのではなく、石垣と言う本物の土木施設の残されていることが重要です ⇒ 天守閣イコールお城ではない【復元した現代の実物大模型を見せるよりも残された本物を見ることが重要】

・本物は石垣だけではありません ⇒ 東北地方の土塁造りの城【石垣が立派で、土塁が劣るわけではありません】

※「うちのお城は石垣もない・・・」⇒ 石垣もないのではなく、石垣を求めなかったことが極めて重要

◆陣屋の魅力

・全国に 100 もあった陣屋 ⇒ 1～3 万石程度の小藩の藩庁【基本的には御殿のみ】
藩邸・城下町・藩校・菩提寺(藩主墓) ⇒ 小さな藩世界を見ることが出来る
さらに交代寄合と呼ばれる参勤交代を行う大身の旗本の居所も陣屋と呼ばれていました
※明治以降ほとんどが失われてしまいます【現在国史跡としては遠江小島陣屋、丹波柏原陣屋、美濃西高木家陣屋跡(交代寄合)しかありません】

・町中に残された様々な遺構 ⇒ 喰い違う道路、側溝に残された石垣など【江戸時代を体感できる遺構】

◆日本の城から世界の城へ

・世界中にある城跡 ⇒ 南極、北極、グリーンランドなど一部の地域を除きほぼ全世界に存在する【人類は世界中で戦争をしていた証拠】

・海外に築かれた日本の城 ⇒ 豊臣秀吉による朝鮮出兵(文禄・慶長の役、壬申丁酉倭乱)に際して築かれた城【倭城】
石垣・天守・瓦葺き建物を備えた織豊系城郭が約 20 ヶ所に築かれた

・日本の城郭をより理解するために ⇒ 世界の城と比較することによって戦争のあり方を考えることが出来ます【中国やヨーロッパの城は都市を囲う城壁】
日本の近世城郭は城下町が堀の外側に形成されます ⇒ 都市を守らなかったのでしょうか
【都市を守る城壁はいざ戦争となると都市民も戦わなければならないし、敗れれば虐殺される】

・ヴォーバン築城の成立 ⇒ 稜堡式築城(星形城郭)【17 世紀以降世界の城郭を席捲する】
ヨーロッパ大陸からアフリカ、南北アメリカ、アジアにまで分布
※ヴォーバン ⇒ フランスのルイ 14 世に仕えた軍人(技術将校)

◆おわりに

・これまでの近世城郭の視点 ⇒ 天守などの建造物中心【それでは城郭の本質としての軍事的防御施設を分析することはできません】
土木施設(堀、石垣、土塁)を分析することにより日本近世城郭の本質的価値に迫ることができます

・3～40,000 ものストリーと構造 ⇒ だから城巡りはやめられない【お城はおもしろい(笑)】